

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教 科： 国語 科 目： 現代の国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（ 1 組：南塚 ）（ 2 組：地橋 ）（ 3 組：南塚 ）（ 4 組：地橋 ）（ 5 組：南塚 ）（ 6 組：地橋 ）

使用教科書：（ 第一学習者 高等学校 現代の国語 ）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他社との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【学びに向かう力、人間性等】				
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
1 学期	「生き物」として生きる（中村桂子）	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	8
	言語活動 話し方の工夫	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	8
	水の東西（山崎正和）	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	7
	ものとことば（鈴木孝夫）	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりでの伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	8
	定期考査		○	○		・既習内容を正確に理解することができる。	○	○	
	無彩色の色（港千尋）	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	12
	現代の「世論操作」（林香里）				・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。				

2 学 期		・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○		○	○	○	12
	フェアな競争（内田樹）	・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・現代社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 ・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	12
	定期考査		○	○		・既習内容を正確に理解することができる。		○	○	2

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教 科： 国語 科 目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（ 1組：山岸・高杉（ 2組：南塚・高杉）（ 3組：山岸・高杉） （ 4組：南塚・高杉（ 5組：山岸・高杉（ 6組：南塚・高杉）

使用教科書：言語文化（第一学習社）、現代の国語（第一学習社）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他社や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書 読					
1 学 期	単元1「古文入門」	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	○		○	・古典の世界に親しもうとしている。 ・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解することができる。	○	○	○	4
	単元2「児のそら寝」 単元3「絵仏師良秀」	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	○		○	・「宇治拾遺物語」の諸段に表されているものの見方や考え方を捉え、内容を正確にとらえたうえで解釈することができる。 ・「宇治拾遺物語」に示された語句の意味を理解し、語彙を豊かにすることができる。	○	○	○	8
	定期考査	・既習事項の確認		○	○	・既習内容を正確に理解することができる。	○	○		1
	単元4『羅生門』※補助教材として「現代の国語」を用いる	・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。 ・文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。	○		○	・『羅生門』に示された語句の意味、用法を的確に理解することができる。 ・『羅生門』を読んで登場人物の発言の意図や心情の描写を的確にとらえることができる。 ・『羅生門』を読んで得た自分の気づきや意見を他者と共有し理解深化を図ることができる。	○	○	○	7
	単元5「なよ竹のかぐや姫」	・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。 ・文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。	○		○	・『竹取物語』に示された語句の意味、用法を的確に理解することができる。 ・『竹取物語』を読んで登場人物の発言の意図や心情の描写を的確にとらえることができる。 ・『竹取物語』に関する意見を他者と共有し理解深化を図ることができる。	○	○	○	7
	定期考査	・既習事項の確認		○	○	・既習内容を正確に理解することができる。	○	○		1
2 学 期	単元6「髭のうへ（三好達治）」 単元7「I was born（吉野弘）」	・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情を捉える。 ・散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。	○		○	・情景にこめられた孤独感など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を正確にとらえたうえで解釈することができる。 ・「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。	○	○	○	4
	単元8「伊勢物語」	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。	○		○	・「伊勢物語」の諸段に表されているものの見方や考え方を捉え、内容を正確にとらえたうえで解釈することができる。 ・「伊勢物語」に示された語句の意味を理解し、語彙を豊かにすることができる。	○	○	○	10
	定期考査	・既習事項の確認		○	○	・既習内容を正確に理解することができる。	○	○		1
	単元9「枕草子」 単元10「夢十夜」※補助教材として「現代の国語」を用いる	・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。 ・文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。	○		○	・『枕草子』『夢十夜』に示された語句の意味、用法を的確に理解することができる。 ・『夢十夜』を読んで登場人物の発言の意図や心情の描写を的確にとらえることができる。 ・2作品に関する意見を他者と共有し理解深化を図ることができる。	○	○	○	8
	単元11「折句を用いて短歌を作る」	・折句を用いて、感じたことを短歌で表す。 ・我が国の言語文化に特徴的な折句の表現の技法とその効果について理解する。	○		○	・折句の技法や規則を正しく理解し、折句を用いて、感じたことを短歌で表すことができる。 ・折句に関する意見を他者と共有し理解深化を図ることができる。	○	○	○	4
	定期考査	・既習事項の確認		○	○	・既習内容を正確に理解することができる。	○	○		1
3 学 期	単元12「漢文の学習」 単元13「訓読に親しむ」	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・返り点の種類と使い方。助字のはたらき、再読文字の種類とよみかたを習得する。	○		○	・古典の世界に親しもうとしている。 ・返り点の種類と使い方。助字のはたらき、再読文字の種類とよみかたを習得し、適切に漢文を読解することができる。	○	○	○	5
	単元14「狐借虎威」 単元15「蛇足」	・故事成語や各原意多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○		○	・「狐借虎威」「蛇足」を訓読することができる。 ・「狐借虎威」「蛇足」に示された寓意を理解し、故事成語に対する認識を深めることができる。 ・故事成語に関する意見を他者と共有し理解深化を図ることができる。	○	○	○	8
	定期考査	・既習事項の確認		○	○	・既習内容を正確に理解することができる。	○	○		1
							○	○		合計

